

## 六甲山自然案内人の会 22年6月度定例観察会報告書

実施日 平成22年6月12日(土)

コース 有馬温泉～癒しの森

参加人数 会員24名 ビジター32名 計56名

### 【観察テーマ】

- ① 有馬温泉の歴史を知る。
- ② 癒しの森の植生を探る。

## ① 有馬温泉の歴史

有馬温泉は道後、白浜と並ぶ日本三古泉のひとつである。

### 湯泉(とうせん)神社

- ・「大己貴命(おおなむちのみこと)=大国主命」と「少彦名命(すくなひこなのみこと)」と「熊野久須美命(くまのくすみのみこと)」の三神が祭神。
- ・大己貴命と少彦名命が人々を病気から守るために薬草を探しに国々を旅し、有馬の地にやってき、赤い水をたたえたある池のほとりで休んだ。そこに傷ついた三羽のカラスがやってきて池で水浴びをしたあと元気になって飛び立っていった。不思議に思い、神が池に手をつけてみると温かかった。これが有馬温泉発見の最初だといわれている。本殿の鴨居に彫られたカラスはこの伝説に登場する三羽ガラスである。
- ・1191年、仁西(にんさい)上人の有馬再興の時、熊野権現として現れた熊野久須美命も併せ祀り、有馬温泉のご祭神とするようになり、有馬温泉鎮護三神と呼ばれるようになった。
- ・子宝・子授けの神としても有名で、子宝に恵まれない人は、有馬の湯に入り、湯泉神社で祈願すれば子宝に恵まれると平安時代から伝えられており、今日も子授けのお守りは全国各地から求めにくる人が多い。

### 孝徳天皇と射場山(いばやま)

- ・大化の改新の二年後647年、孝徳天皇が宮殿を建てたる木を探すために有馬(現在の射場山=当時功德山(こうとくやま)と呼ばれていた)にやって来た。そこで豊かに育った杉の木を見つけ、それを使って立派な宮殿を建てた。天皇が「この山の功績は大きい」とおほめの言葉を与えたことから「功地山(くむちやま)」と呼ぶようになり、その後弓場山から射場山へと変化したと伝えられる。

### 有馬筆

- ・647年、孝徳天皇行幸の際皇后と有馬温泉に入った。その後有間皇子(ありまのみこ)が授かった。寛文4年(1664年)の文献ではその皇子にちなんで有馬筆がつくられたと伝えている。
- ・社寺が多く、湯治客の需要もあり、背山には筆毛の原料である動物、筆軸になる竹も豊富であったことから、古くから筆づくりが行われ、明治中期から大正初期にかけて盛んであり、有馬物産中の最高位を占めた。

### 行基と温泉寺

- ・奈良時代、薬師如来の導きにより行基が有馬温泉にやって来る。行基は724年、温泉寺を建立し、衰退しつつあった当時の有馬温泉を発展させた。
- ・これをのちに仁西上人が再興した。
- ・本尊は薬壺を持った薬師如来坐像。国の重要文化財。両脇に日光・月光菩薩、十二神将(しんしょう)をしたがえている。
- ・寺の建物も国の重要文化財。

### 坊のつく旅館

- ・温泉寺の本尊である薬師如来の十二神将にちなみ12の宿坊を仁西上人がつくった。その後秀吉によってさらに8の宿坊が加えられ、20の宿坊を数えた。
- ・現在6坊が残っている。

### 湯槽(ゆぶね)谷山

- ・720年、行基が温泉寺を建立し、温泉の湯槽をこの山から切り出した木で作ったためこの名が生まれた。

## 善福寺

- ・行基により開祖された寺。仁西上人により再興される。
- ・阿弥陀如来像と聖徳太子立像(重要文化財)が安置される。
- ・神戸市民の木・神戸の名木に指定されている樹齢280年以上といわれるしだれ糸桜で知られる。
- ・阿弥陀堂住職の猪のような頭の形を面白がった秀吉が千利休に命じて、その形に似せた大ぶりの茶釜を作らせた。  
これがいまも茶の湯で“阿弥陀堂”と呼ばれる形の釜の起こりである。  
その釜は今日も善福寺に伝えられている。

## 仁西上人と落葉山

- ・1191年、和歌山で修行中の仁西上人の夢枕に神が現れ、『明朝旅支度をしてナギの木の下に來い』と告げる。  
翌朝ナギの下に行ってみると一匹のクモが現れ、仁西を導いた。  
クモの後をついていくと有馬の山(現在の落葉山)までやってきた。  
クモが姿を消すと一人の仙人が現れ、『ナギの葉が落ちたところを再興せよ』と云う。  
ナギの葉が落ちたところが現在の金の湯であった。  
葉を落とした山は落葉山と呼ばれるようになった。  
その仙人は熊野権現(=熊野久須美命)だといわれている。

## 極楽寺と秀吉の湯山御殿

- ・594年、聖徳太子によって創建された。
- ・もともと杖捨橋の東にあったが、のちの大洪水で被災したのを仁西上人が現在の場所に移し、再興した。
- ・本尊は阿弥陀如来座像。
- ・有馬温泉を愛した秀吉によりこの場所に「湯山御殿」が建てられ、蒸し風呂岩風呂がつくられたと伝えられていた。  
しかし平成7年の大震災で被害を受けた極楽寺の庫裏の下から湯槽や庭園の遺構が実際に発見され、全国的に注目を集めることとなった。

## 灰形山

- ・秀吉は現在の灰形山の姿を大層好んだ。  
そこで利休と茶の湯をたしなんでいる時、風炉の灰を『あの山の形にせよ』と命じた。  
そこから灰形山の名が生まれた。

## ねねと念仏寺

- ・秀吉の正室ねねの別邸。
- ・本尊は快慶作の阿弥陀如来立像。  
浄土宗としては珍しい立像である。真宗では立像が普通。
- ・現在有馬最古の建物である。国の重要文化財。
- ・この奥に樹齢300年のナツツバキがある。
- ・このあたりは秀吉のころの高台の一等地であった。

## 有馬籠

- ・有馬籠の歴史は非常に古く、15世紀桃山時代、有馬に入湯した顕如(けんによ)上人が有馬土産として秀吉の正室ねねに有馬籠を贈ったと伝えられている。
- ・有馬籠は利休好みの竹細工としてつくられた歴史を持つ。
- ・江戸時代有馬の町名に籠屋町や筆屋町があったほど籠や筆づくりは盛んであった。
- ・明治6年ウィーン万国博覧会に出品した有馬籠は優秀賞を受賞した。
- ・その後有馬籠は次第に発展し大正年間には有馬籠の全盛時代をむかえる。  
現在有馬籠を製造・販売するのは一軒のみとなった。

## 癒しの森

- ・兵庫県の平成18年度事業として整備された遊歩道。  
広く除間伐が行われ、「炭屋道～魚屋道～筆屋道」の明る森が完成し、「有馬温泉癒しの森」と名付けられた。

## 炭屋道

- ・紅葉谷と魚屋道を結ぶ遊歩道に炭窯跡(楕円形に石を積んだ跡)がたくさん残っていたため「炭屋道」と名付けられた。
- ・戦前まで炭が焼かれていたという。

## 魚屋道

- ・江戸時代に水産物を有馬に運び、北摂の物産を海路に結びつけたルートである。

### 《魚屋道の民話》

「ある魚屋が有馬で魚を売り、売り残した魚を持って帰る途中、魚屋道で突然現れた山犬に着物を引っ張られ岩の後ろに連れ込まれた。その直後にたくさんの狼が通り過ぎていった。以来魚屋たちは魚を山犬に与えるため、売れ残った魚は捨てることなく、魚屋道を越えた」と言われる。

### 筆屋道

- ・魚屋道と瑞宝寺公園を結ぶ遊歩道は昔猪がたくさんいたため猪谷と呼ばれていたが、有馬筆にちなんで筆屋道と名付けられた。

### 瑞宝寺公園

- ・瑞宝寺は大黒屋宗雪が1604年に瑞宝庵を造り、その孫に当たる寂岩道空が禅寺として瑞宝寺と名を改めたのが始まりとされている。  
したがって秀吉が有馬に通っていた頃はまだ瑞宝寺はなかった。
- ・公園内には秀吉が碁を楽しんだといわれる石造りの碁盤がある。



社寺巡り

泉源めぐり

## ②癒しの森の主な植物

### 炭屋道

アカマツ アラカシ イヌツゲ ウラジロノキ オオバヤシャブシ クロモジ クリノキ コガクウツギ コシアブラ コナラ コバノガマズミ コバノミツバツツジ サルトリイバラ シキミ シチダンカ スノキ ソヨゴ タカノツメ タムシバ ナツハゼ ナンキンナナカマド ネジキ ネザサ ノイバラ ヒサカキ マルバアオダモ ミヤマガマズミ モチツツジ ヤマウルシ リョウブ

### 魚屋道

アカマツ アセビ アマドコロ アリマウマノスズクサ イヌツゲ イワガラミ ウツギ ウラジロノキ ウリカエデ ウリハダカエデ カキノキ クロモジ コアジサイ コガクウツギ コシアブラ コツクバネウツギ コナラ コバノミツバツツジ スノキ ソヨゴ タカノツメ タムシバ ナワシログミ ナンキンナナカマド ネジキ ネザサ ミヤマガマズミ モチツツジ ヤブツバキ ヤブムラサキ ヤマウルシ リョウブ

## 筆屋道

アカマツ アオキ アオハダ アカメガシワ アセビ アリマウマノスズクサ イタヤカエデ イワガラミ ウツギ ウラジロノキ ウリハダカエデ ウワミズザクラ オオカメノキ オオクマヤナギ オオバヤシャブシ カマツカ キブシ クマイチゴ クロモジ ケンポナシ コアジサイ コガクウツギ コゴメウツギ コシアブラ コツクバネウツギ コナラ コバノガマズミ コバノミツバツツジ シキミ シロバナウンゼンツツジ スギ スノキ タカノツメ タムシバ ツタウルシ ナガバモミジイチゴ ナワシログミ ネジキ ネザサ バイカツツジ ヒノキ ベニドウダン ミヤマガマズミ モチツツジ ヤブウツギ ヤブツバキ ヤブニッケイ ヤブムラサキ ヤマウルシ ヤマザクラ ヤマツツジ ヤマボウシ リョウブ



コガクウツギ



コアジサイ



ウツギ



アリマウマノスズクサ



バイカツツジ